# 一月の購入図書

## 一般図書

読書戦争　紀田順一郎
オリエント神話九九の謎―神々と宗教の起源を探る　小川英雄
仏教のことば　奈良康明編
言葉の海へ　高田　宏
平賀源内の生涯　甦る江戸のレオナルド、ダ、ビンチ　平野威馬雄
聞き書き　遠野物語　内藤正敏
学校と家庭の間　戸田唯巳
あなたの法律相談　樋口幸子(等)編
住宅ローン　藤田正美
借地借家法　中川淳編
広中平祐の家庭教育論　広中平祐
アジアに立つ　宇都宮徳馬
日本村落史　木村　健
アクセス権とは何か　堀部政男
長生きの食事学　五島雄一郎
新秘の光オーロラ　小口　高
進化論―東と西　今西錦司(共)著
身近な医学　W、バラノウスキー著
フッ素とむし歯　高橋晄正
知っておきたいガンの知識　小渋雅亮
おかあさんの小児科ノート　毛利子来
わが家の手づくり食品　久宗壮
図解新ロープの結び方　杉浦昭典
野草どりと料理　丸山尚敏(共)著
酒の肴　主婦の友社
あらゆる汚れをとる本　永田美穂
テレビッ子　読売新聞社婦人部編
農協今日と明日　新井義男
庭木、花木、果樹　中村恒雄(共)著
果樹園芸学　岩田正利(等)著
戦後日本産業年表　小山雅夫
日本の土人形　俵有作編著
演劇夜話随筆集　北条秀司
木彫工芸　伊藤隆一
高校生のための作文読本　市毛勝雄
話し上手、聞き上手　中川昌彦
旅行鞄はひとつ　永　六輔
一絃の琴　宮尾登美子
男と女をめぐる断章　吉行淳之介
蝶ネクタイとオムレツ　高橋義孝
徒然草入門　伊藤博之
怒りの白き都　西村寿行
愛すれど孤独　吉武輝子
大妖怪　藤原審爾
時　効　和久峻三
母ありてこそ　生方たつゑ
隼別王子の叛乱　田辺聖子
小椋佳全詩集　小椋　佳
翳りある座席上・下　黒岩重吾
誰袖草　中里恒子
新源子物語(一)　田辺聖子
ことばの力　大岡　信
草　宴　瀬戸内晴美
外六十一冊

## 児童図書

ぼくとおじいちゃん　シュミット・フリーデル
ちょうだい！　ウァイポンド・エルフリーダ
テイッチ　ハッチンス・パット
くまのおた　ガンチェフイヴァン
つりがねぶちのかっぱたち　きたじましんぺい
およめにいった三人のむすめ　マブリナ・タチアートえ
サンタのたのしいなつやすみ　ブリッグス・レイモント
おばかさんのペチューニア　デュボアザン・ロジャー
ともだちさがしに　ファティオ・ルイーゼ
チリンのすず　やなせたかし
正義に生きる　石川光男
あっても見えないものなあに？　折井英治
ぼくは小さなサメ博士　矢野憲一
おほしさまへのてがみ　堀内純子
外三十三冊

一般図書　一一六冊
児童図書　四七冊
計　一六三冊

# 身近かな図書館
## 一坪図書館

『ポストの数ほど図書館を』の発想によりはじめられた、県立図書館による「一坪図書館運動」をさらに充実発展させるために、市立一坪図書館を設置して居ります。

現在県立、市立あわせて、盛里に一館、禾生に二館、谷村に一館、宝に三館、東桂に一館が運営されて居ります。さらに東桂、禾生、三吉、開地になお数館必要です。

地域に結びついた読書活動の拠点として、一坪図書館長になって見ませんか。市民の皆様からのお申出をお待ちして居ります。

# 郷土のしおり
## 近世〔4〕

知行としては三八〇〇〇石で南八代郡(西八代郡のうちの)にて二八〇〇〇石、郡内で一万石という(両谷村、森島其進の草稿)この数字がはたして正確かどうかはのちに検地が行われるようになるまでまたなければならない。

小山田氏時代に検地のことがあったかどうかもあきらかでないからである。

鳥居元忠は徳川家の譜代の家臣であり、元忠の父の忠吉は清康、広忠、家康の三代につかえて忠勤をみとめられた武人で、彼元忠は十三歳で家康に接し、桶狭間（永禄三年）姉川（元亀元年）三方ケ原（元亀三年この合戦で戦傷をうけてびっこになった）長篠（天正三年）などの合戦では家康の陣中にあってめざましいはたらきをしたという、武人であり経世家でもある円満な人がらは執政にもあらわれ、民心のあるところをおさめるのに心をつくしたという。

元忠は敬神、崇祖のため心をつくし、郡内の神社、仏寺に寺社領の安堵また建立、寄進は古記録にのこされ次男成次の名とともに伝えられ、上吉田の諏訪明神、勝山の富士御室神社、明見の小室浅間神社、谷村新町の禅定山長安寺の開基となり、また同羽根子の大儀山長生寺の山門も鳥居氏が檀越（だんおち、施主、信徒を僧から呼ぶ、だん家）になった時の建立であるといわれ、現存するものとしては最も古い建築物とされている。

この社寺への寄進、原遇することによって信仰を通じて人心の安定をはかったことは元忠の大きなねらいであったにちがいない。

天正十一年八月に徳川家康はふたたび甲府に入り、尊躰寺にいて、この月から服部半蔵正成が伊賀者（忍者）二〇〇人をひきいて、郡内谷村城を極月まで守らせた。同中保正を出して岩殿城の加番とした（城番の副として警備にあたるもの）この服部衆が郡内の警備についたことは元忠が手うすであったからか、また北条方に何らかの動きがあったかとも考えられるが、元忠をおいてありながら守りを強化したのは、郡内のもつ意義が徳川方にとって大切なものであったことがわかる。

そして家康は平岩親吉に命じて甲府一条の小山に縄張りをして甲府城の起工をはじめたといわれ、江戸期を通じて江戸城の外郭の一方の守りとして軍事的にゆるがせにはできないことを家康は地理的にも想定していたからであろう。

その後は豊臣領となって浅野長政、長継（のちに幸長）の父子が城を完成させたという。

羽田　富士男